

令和4年度第2回富山県国民健康保険運営協議会 議事録要旨

◆日 時：令和5年3月23日（木） 15:30～17:00

◆場 所：富山県民会館ギャラリーC（301号室）

◆出席委員：10名

【被保険者代表】

井林委員、大島委員、岡田委員、城戸委員

【保険医又は保険薬剤師代表】

南里委員、村上委員

【公益代表】

荒木委員、中村委員

【被用者保険等保険者代表】

片原委員、松井委員

◆事務局：有賀厚生部長、五十里こども家庭支援監・厚生部次長
今井参事厚生企画課長、北山厚生企画課医療保険班長 ほか8名

1 開 会

2 挨拶（有賀富山県厚生部長）

3 議 事

（1）令和5年度事業費納付金の算定結果について

資料1 令和5年度事業費納付金の算定結果について

資料1_別紙1 令和5年度国民健康保険事業費納付金算定について

資料1_別紙2 令和5年度標準保険料率の公表について

（2）令和5年度国民健康保険特別会計予算について

資料2 令和5年度富山県国民健康保険特別会計予算について

（3）令和5年度保険者努力支援制度（取組評価分）の評価結果について

資料3 令和5年度保険者努力支援制度（取組評価分）の
評価結果について

資料3_別紙 令和5年度保険者努力支援制度（取組評価分）の
各指標の評価結果について

（4）令和5年度富山県国保ヘルスアップ支援事業等について

資料4-1 令和5年度富山県国保ヘルスアップ支援事業について

資料4-2 令和4年度富山県国保ヘルスアップ支援事業について

(5) 富山県国民健康保険運営方針の改定スケジュールについて

資料5-1 富山県国民健康保険運営方針改定スケジュール(案)

資料5-2 富山県国民健康保険運営方針の概要

4 意見交換

(委員)

保険料水準の統一に向けた現状の課題等を教えていただきたい。

(事務局)

県単位化前に比べると、保険料率の格差は縮小したが、今後急激な保険料の上昇を招かないよう時間をかけて統一化を目指したい。

(委員)

資料3に記載の「(2)今後の取組」に関して、具体的な方策を教えていただきたい。

(事務局)

今までは実施したことが評価につながっていたが、今後は実施した後にどういう成果が出たかが評価対象になるので、そこをふまえて市町村の事業を支援していく。

(委員)

資料3に記載の「糖尿病等の重症化予防」の取組は例年点数が獲得できていないのか、また、未治療者や治療中断者はどれほどの人数がいるのか。

(事務局)

重症化予防については、都道府県循環器医療対策推進協議会との連携が大きくなっているが、そこについて点数を獲得できていない。治療中断された方は相当数いるので、今後は健診結果やレセプト情報を活用して、未治療者や治療中断者に対する取組について成果につなげていきたい。

(委員)

資料3別紙2の2市町村分の保険者共通の指標で「⑥後発医薬品の促進の取組、使用割合」とあるが、現在ジェネリック医薬品の供給不足で医療機関になかなか入ってこない現状である。

(事務局)

委員の方のおっしゃるとおり、ジェネリック医薬品の製造の減少は認識しており、今後

適正化に向かえば回復するのではないかと考えている。

(委員)

富山県はがん検診の受診率が全国平均を下回っているという課題があり、がん検診の実施回数が増えるよう努めていただきたい。

(事務局)

市町村との連携を密にしながら、要望や意見として伝えていきたい。

(委員)

ヘルスボランティア活動として、がん検診の受診勧奨グッズの配布等を行っているが、そういった活動が結果につながればと思う。

(委員)

ヘルスボランティアの母子推進員として、乳がんや子宮頸がんのパンフレットを配布しているが、実際に受診につながったかどうかは把握できないので、情報共有をしていただければと思う。

(委員)

会議を通して、施策の予算の取り方や配分方法等努力していることが理解できた。市町村の方で行っている施策に対して、少しでもバックアップできたらと思う。

(委員)

がん検診については、コロナの影響で受診を控えた人が多かったのではないかと思うが、具体的になぜ受診できないかということをも明らかにして具体的な方針を市町村に伝えていただけたらと思う。

(委員)

わずかな自己負担で肺炎球菌のワクチン接種を受けられるのに高齢者のワクチン接種率が低いので、そういった取組もしていただけたらと思う。

(委員)

参考資料の2の4ページの「Ⅱ医療費の動向」に関して、令和2年度はコロナの影響で受診控えがあった一方、令和3、4年度は受診控えがなくなり医療費が増加したと思うが、令和5年度以降の医療費の増減についてどのように考えているか。

(事務局)

今後の動向については、もう少し注視しながら考えていきたい。

(委員)

2025 年問題ということもあり、それ以降は前期高齢者の医療費は減ると考えているがどうか。

(事務局)

国保の被保険者は減少していくと考えるが、医療費の高度化によって逆に1人当たりの医療費が増えることとの兼ね合いだと考えているため、動向を十分注視していきたい。

(委員)

国保の医療費だけを見ているが、1つの保険者だけでなく介護費等のデータなども可能であれば示していただきたい。

(事務局)

医療費適正化の観点からだと思うが、医療費が増えれば現役世代の負担が重くなったり後期高齢者の負担割合が上がったりと全世代型の社会保障対応ということになる。国保だけでなく全体で考えるべきことだと思うので、国の動向を見ながら必要であれば、県としても国にお伝えしていきたい。

(委員)

予算の執行の関係で難しいと思うが、規模が小さい市町村や医療機関が少ない市町村では、予約が取りづらい状況もあるため、がん検診の期間を延長していただきたい。

(事務局)

委員のご意見については、市町村の方にも共有し何か工夫できないか考えていきたい。

5 閉会